

小規模多機能型居宅介護「サービス評価」 総括表

法人名	医療法人社団松涛会	代表者	齋藤 正樹	法人・事業所の特徴	小規模多機能ケアタウン山の田は、地域包括ケアの考えをベースに作られた複合施設の中にあり、内科、薬局、リハビリセンター、グループホーム、コンビニ、サービス付き高齢者向け住宅と共に一つの地域を創りあげています。利用者個々の生活のペースを大切にし、地域の中でその人らしく生きる為の支援を行っています。自治会活動に参加し、近隣の方々やボランティアの訪問も受け入れ、地域と共に歩むことを目指しています。
事業所名	小規模多機能 ケアタウン山の田	管理者	保多盛 優子		

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援センター	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	人	人	3人	人	1人	1人	人	5人	人	10人

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取組み・結果	意見	今回の改善計画
A. 事業所自己評価の確認	<ul style="list-style-type: none"> ・泉幼稚園へのアプローチ九州場所後、力士の方との交流ができるようにと、話が進んでいる。その他の行事でも園児に来ていただけるよう働きかけていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・力士の来訪は実施できなかった。幼稚園に対する具体的な関わりも行っていない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・職員全員で取り組もうという姿勢は、会議を3回に分け実施する、全員で自己評価を行っているという点で、伝わった。 ・改善や取り組んで欲しいことに対しては即時対応していただいている。 ・家族や利用者の声にならない声を察して対応できるように、こまめな声掛けをするなど配慮してほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者カンファレンスを毎月15日に開催し、新規利用者についても入所前後の情報や課題、ニーズなどを把握できるように努める。 ・利用者、その家族と、より良い関係を築けるよう行動する。挨拶だけでなく、近況を伝える、困ったことがないか伺うなど対応を心掛ける。
B. 事業所のしつらえ・環境	<ul style="list-style-type: none"> ・運営推進会議に参加された際は、小規模へご案内し日々の様子を知っていただけるようにする。 ・サ付住宅に住まれている方々が、気軽に立ち寄れるような工夫をする。(玄関に利用者様の作品を飾る、生花を飾る 等) 	<ul style="list-style-type: none"> ・運営推進会議では小規模にご案内できなかったため、外部評価時にご案内させていただいた。 ・玄関にはいつも生花が飾られており、サ付住宅入居者が立ち止まったり、見せてほしいと中に入られたりしていた。又、利用者の季節の作品を玄関に展示し、それを糸口に会話が弾んでいる光景が見られた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・においという点に関しては、松涛会の施設はどこに行っても嫌なおいがせず皆様快適な環境で生活されていると思う。 ・香りは人それぞれ好みがあるので、香りを出すアロマ以外にも、竹炭など、消臭効果があるものを置いてはどうか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・外部評価時だけでなく、運営推進会議前に小規模多機能に立ち寄っていただき、日ごろの様子を見ていただけるようにする。 ・生花や玄関の作品については引き続き行っていく。竹炭やコーヒード豆など消臭について検討する。
C. 事業所と地域のかかわり	<ul style="list-style-type: none"> ・来年度よりグループホームと合同でオレンジカフェを開催する。 ・レクリエーションを提供するだけでなく、介護に関する相談を受けたり、小規模多機能についての説明を行い、地域の方に知って頂けるよう努める。 	<ul style="list-style-type: none"> 4月から合同開催。4月はレク(トランプ・かるた・ゲームなど)を行い、参加者から楽しかったとの声も聞かれた。地域の方に知ってもらい取り組みが不十分で、今後、開催回数や開催日時など、どのようなカフェにしていくのか、話し合いが必要と思われる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・オレンジカフェの案内チラシは自治会の掲示板を活用して、地域に周知できればと思う。 ・地域の行事には、休日や朝早くから貴重な時間を割いていただいて、よく参加していただいている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域資源を把握する。(ボランティアなど、どのようなものが地域にあるか) ・ボランティアや職場体験など、拠点長を通じて地域の学校などに依頼する。 ・地域連絡会、自治会会議への参加。
D. 地域に出向いて本人の暮らしを支える取組み	<ul style="list-style-type: none"> ・民生委員の方との関係をより密にして、独居の方や、心配な方がどのあたりに住んでおられるか把握する。 ・山の田・武久地区だけでなく、利用者様が住んでおられる地域の自治会の方にもアプローチしていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・民生委員の方々は、自分の担当の方のことは把握されているが、それをケアタウン山の田に提供するためには個人情報保護の観点から、本人の同意が必要である。まずは地域に知ってもらい、いつでも相談窓口が開いている状態にすることに力を入れてはどうか。武久・山の田以外の利用者在住の自治会にはまだアプローチできていない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・個人情報保護の観点から情報共有については制限がある。家族や本人が入居や施設利用を検討しているなど相談を受けた場合は、情報共有は可能なので、今後もそのような場合は相談させていただく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ケアタウン山の田の2階レストランを利用して、講座の開催などを検討する。 ・クレームや要望など記入できる用紙を作成し、サ付き住宅とも情報共有し、改善していく。
E. 運営推進会議を活かした取組み	<ul style="list-style-type: none"> ・運営推進会議を活かして、事例検討を議題に挙げ、話し合う。 ・地域との情報交換をさらに密にし、関係の強化を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・第1回の会議では、心配な方の情報はなかった。情報交換をしっかりとる中で、適時運営推進会議を活かして話し合う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・Dの項目同様、個人情報の観点から事例検討は難しい状況であった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・職員は、オブザーバーとしてではなく、きちんとした形で運営推進会議に参加し、発言できるようにする。
F. 事業所の防災・災害対策	<ul style="list-style-type: none"> ・事業所の火災訓練を向上させる。 ・高齢者の搬送の仕方を実践する。階段の移動や担架がない時の搬送方法など。 ・火災訓練の後に、救急のミニレクチャーを行う。出血や骨折がある方への対応法など。 ・運営推進会議に消防の方に参加していただき地域防災に関する意見をいただく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・第1回の運営推進会議で中央消防署の方に参加していただいた。利用者家族や民生委員からも、避難訓練に対する改善点に関する意見がでた。避難訓練に利用者も参加する、火災場所をランダムに設定し、臨機応変な避難誘導が出来るための訓練を行なう等。救急訓練の講義は中央消防署の方に依頼できることも分かり、具体的な計画を立てる必要がある。拠点長を中心に、ケアタウン全体で取り組んでいけるよう働きかける。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自治会によって、防災訓練を行っているところ、活動できていないところがまちまちである。炊き出しなどを行っている自治体もある。大学町の自治会では、けがをしたときの対応など実践的な訓練も行っている。ケアタウンからも地域の避難訓練などに参加していきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域で行われている防災訓練の把握、見学や参加の依頼と実現。